

NO.66

蓬 左

HÔSA



蓬左文庫新館

名古屋市蓬左文庫
HÔSA LIBRARY, CITY OF NAGOYA

新装開館いたしました

蓬左文庫は、改築整備を完了し、昨年十二月二日、新装開館いたしました。

展示室は、徳川美術館の大名道具と蓬左文庫の書物をあわせて展示できるよう整備し、建物を廊下で連結して、両館の館内から行き来出来るようになりました。

閲覧室も六倍の広さとなり参考図書の実用やパソコンによる検索・閲覧システムの整備が計られています。

このたびの整備は、蓬左文庫がある徳川園全体の再整備にともなう行われ、園内には、新たに大名庭園の代表的な様式である池泉回遊式の日本庭園が整備されました。



展示室1

書物だけでなく、調度類も展示できる展示室です。

展示室2

所蔵の大型絵図が展示できる設備を備えています。



閲覧室

マイクロフィルムのディスク化によりディスプレイ上での閲覧と同時に大量の全巻コピーも可能となりました。



エントランスホール(旧書庫)

昭和25年から58年まで蓬左文庫の貴重な蔵書を収めていた旧書庫は、このたび曳き屋により90度場所を移動して蓬左文庫閲覧棟の正面玄関ホールに再利用されています。

ホール内には、「河内本源氏物語」などの代表的蔵書の複製展示とともに、2階部分は、書庫の姿をそのままのこし、1階ホールから和装本を書架に横積した状態を御覧になれます。

記念の展示会や催事で賑わいました

新装蓬左文庫の開館と同文庫と徳川美術館との連携を記念した展覧会として両館が所蔵する尾張徳川家に伝えられた王朝物語にかかわる数々の作品を中心とした「王朝の雅び千年―物語文学の世界―」とこのたびの庭園整備のモデルとなった江戸時代の大名庭園の姿を紹介する「江戸のワンドーランド 大名庭園」が、両館の展示室を使って十二月十九日まで開催されました。



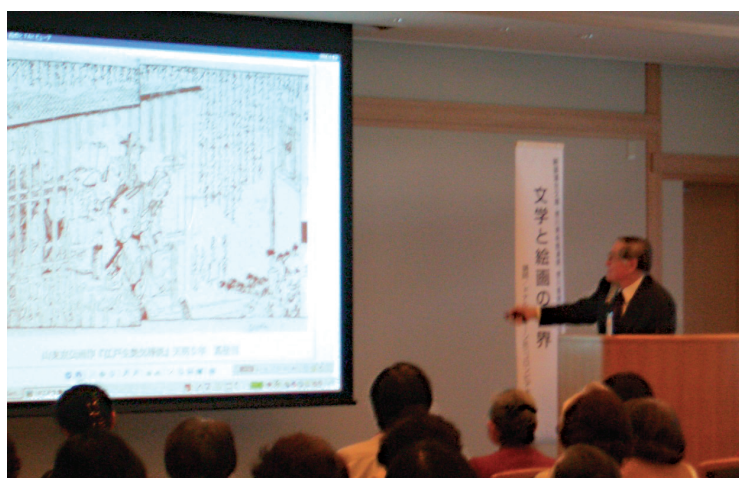
11月1日、オープンに先立ち開会式がおこなわれました。

「王朝の雅び千年―物語文学の世界―」会場



蓬左文庫展示室入り口のガイダンスホールの床には、名古屋城下図と尾張国図が陶板で設置されています。開館以来、知っている地名、関心のある地名をさがす来館者でにぎわう人気のコーナーです。

十二月二日の南山大学教授安田文吉氏による講演「尾張の土地柄と大名（武家）文化」を皮切りに、多彩な催事や講演会が新しく整備された日本庭園内のガーデンホールでおこなわれ、十二月十二日から、三月まで月二回の連続講座もはじまりました。



ドナルド・キーン氏による特別講演が11月23日「文学と絵画の世界」のテーマで開催されました。

会期：平成十七年一月四日(火)から二月十三日(日)

和歌への誘い

平成十七年は最初の勅撰集「古今和歌集」が成立して千百年目に当たります。日本人の心情を花鳥風月の中に歌い上げた和歌の世界を宮廷と和歌、大名と和歌の視点から紹介します。

宮廷社会の美意識や季節感を伝える和歌書とともに、家康はじめ将軍や尾張藩主の和歌書も展示します。



にじゅういちだいしゅう
二十一代集 伝八条宮智仁親王筆
江戸時代前期写 48冊

「古今和歌集」(10世紀)から「新続古今和歌集」(15世紀)まで全21種の勅撰集。能書家として知られる八条宮智仁親王(1579~1629)の筆と伝えられ、金欄の表紙をもつ豪華な写本である。

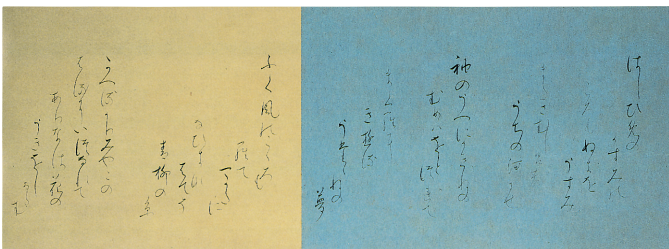
はちだいしゅう
八代集 江戸時代中期写 14冊

最初の勅撰集「古今和歌集」から「新古今和歌集」まで、8種の勅撰集。婚礼調度として整えられた書物と推定され、吉兆模様の金欄の表紙に朱の題簽を配した慶事に相応しい装丁が施されている。



しんごしゅういわけしゅう
新後拾遺和歌集 良尚親王筆
江戸時代 17世紀 1巻(徳川美術館蔵)

色変わりの美しい料紙を使用して、第20番目の勅撰集「新後拾遺和歌集」の和歌を抄出し、散らし書した調度手本。



めいこうぎょえい
明公御詠
徳川宗睦詠 徳川維子筆
江戸時代 19世紀 14冊

尾張藩九代藩主宗睦(明公1733~99)の歌集。十代藩主斉朝(1793~1850)が編集し、宗睦の養女で近衛基前室となった維君(1785~1847)に書写を依頼して、文化9年(1812)に成立した。題箋の書名は、斉朝の直筆である。

会期・平成十七年二月十五日(火)から四月三日(日)

さまざまに愛好され続けた源氏物語

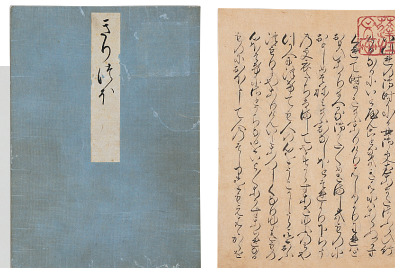
十一世紀初頭に紫式部によって著された「源氏物語」は、その後文芸活動のみならず、絵画や書・工芸をはじめとする美術、能に代表される芸能などに大きな影響を与えてきました。また江戸時代には「源氏物語」を翻案した草双紙や錦絵が出版されました。

「源氏物語」の写本とともに、「源氏物語」の能に使用される能面や能装束、五四帖各帖の名称を持つ茶道具、江戸時代後期に江戸文芸の世界を背景に制作された絵双紙や錦絵などを紹介します。



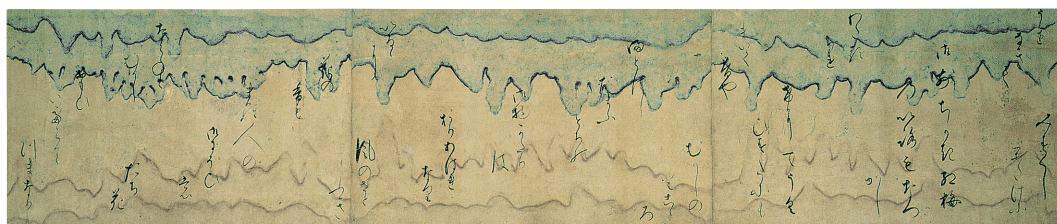
にせむらさきいなかげんし
偽紫田舎源氏
柳亭種彦作 国貞画
文政11～天保13年(1828～42)刊 38編19冊

江戸時代後期、庶民向けの絵入り長編小説としてベストセラーとなった「源氏物語」の翻案小説。本書は、尾張藩の奥向きの蔵書であったと伝えられ、巷間を流転して読み古された姿の本が多い江戸文学書の中で、稀に見る新品同様の姿で伝えられている。



げんじものがたり しゅうはほん
源氏物語 紹巴本 付系図
天正8年(1580) 奥書 54冊1帖

「青表紙本」系の源氏物語。桐壺の巻の巻末に連歌師として知られる里村紹巴(1525～1602)の奥書がある。他の巻は、紹巴一門による寄合書。



げんじものがたりぬきがき さわらび
源氏物語抜書 早蕨 尊円親王筆 江戸時代 17世紀 1巻(徳川美術館蔵)

藍と紫の内曇り紙に金泥で花・鳥・蝶などが描かれた装飾料紙に「源氏物語」早蕨の一文を散らし書きたもの。

会期：平成十七年一月四日（火）から二月十三日（日）

大名家のお正月

お正月は、江戸時代の武家にとって最も重要な年中行事でした。幕府や大名家では、元日の年頭拝賀にはじまり、三日夜の御謡初[※]、七日の若菜（いわゆる七草粥）、十二日の具足祝（いわゆる鏡開き）などのさまざまな行事が行なわれていました。

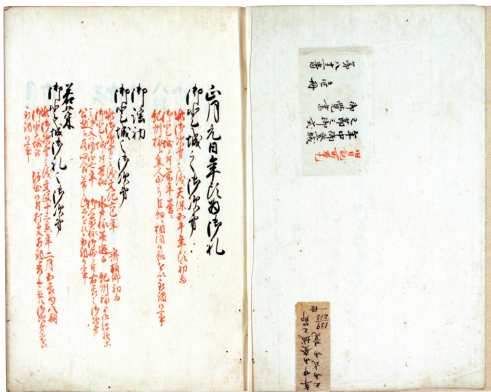
尾張藩主も、江戸参勤中には江戸城内で行なわれる行事に参加し、將軍家に率先して忠誠を表わしました。他方、家臣たちとは、在国中には名古屋城内で、江戸参勤中には江戸藩邸で同様に正月の行事を祝いました。祝いの行事では、宴会や太刀・服などの贈答が、家格や身分に応じた厳格な作法に則って行なわれました。

江戸城内での藩主の作法に関する手引きをはじめ、家臣たちに儀式作法を心得させるための書物・絵図、儀式の場となった御殿の絵図などを主に、大名家の正月行事の一端を紹介します。

また、尾張徳川家の所蔵の品から、大名家の子女の正月の遊びもあわせて紹介します。

※御謡初
おうたいはじめ

正月3日夜、武家の式楽である能の謡初があり、祝宴がもたれた。参列者は着ている袴の上（肩衣、かたぎぬ）を能役者たちに与える慣例があった。



ねんじゅうごとじょうのせつのおしきおんおほえ
年中御登城之節之御式御覚 江戸時代後期写 1冊

御三家である尾張藩主は、他大名に先立ち、正月元日に江戸城白書院にて將軍に年頭拝賀をおこなうという、諸大名中で最高の家格を認められていました。

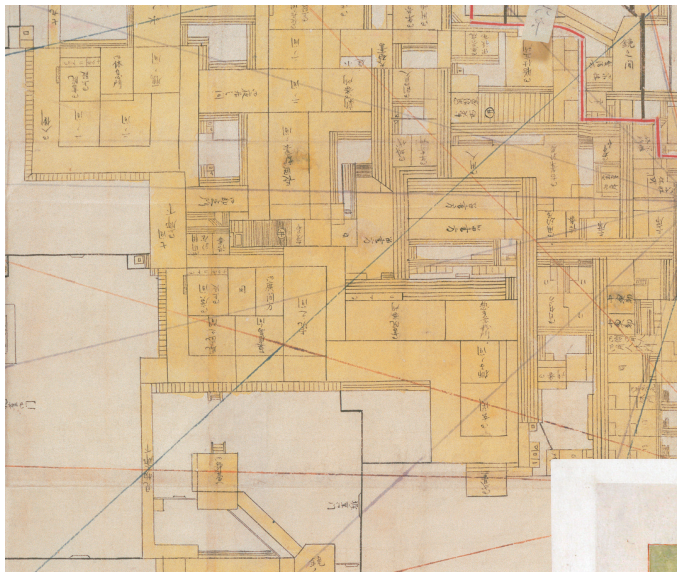
あさおかおがさわらりゅうしつけほうごせつつかざりものしだい
朝岡小笠原流躰法五節句飾物次第 江戸時代後期写 1冊

尾張藩の儀式作法を司った朝岡家に伝わる書物。本図は、具足祝に飾られる甲冑に供える餅飾りが描かれている。参列者は、酒・餅を振る舞われた。

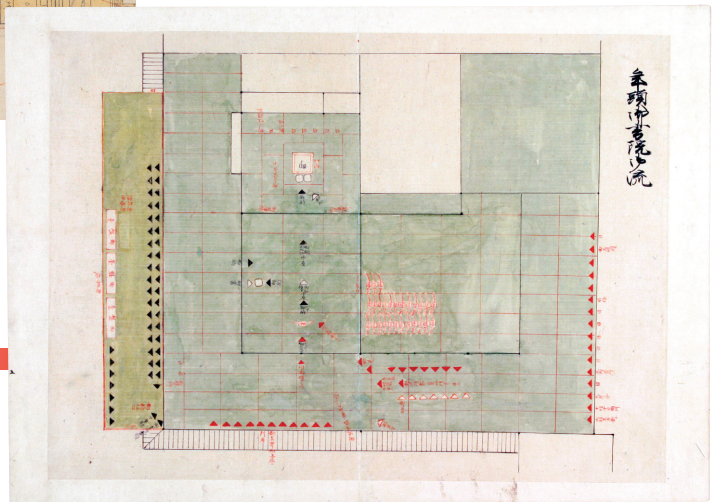


あおいもんつきさぎちょうずはごいた
葵紋付左義長図羽子板（徳川美術館蔵） 江戸時代後期 2枚

女子の正月遊びの一つ、羽子つきに用いる。表面には貴人の家族が遊ぶ様子が、裏面には左義長（いわゆる、正月15日のどんと焼き）が描かれている。



おしろずめん
御城図面(部分) (名古屋城二之丸御殿図)
江戸時代後期写 1枚



しんせんようらん
進饌要覧(年頭御書院流)
舎人重巨編 江戸時代後期写 13冊

正月元日、名古屋城二之丸御殿書院で、「太刀・馬代御礼以上」とよばれた上級藩士たちが藩主に年頭拝賀をおこなって太刀・馬代(銀)を献上し、お流れの酒盃を拝領した。中級以下の藩士、寺社、お出入りの町人たちも、場所や日時を変えてそれぞれ年頭拝賀をおこなった。「進饌要覧」は、尾張藩士舎人重巨が編集した藩の公式宴会での作法書。書院での年頭拝賀を解説する本図には、藩主に献上される太刀・馬代(銀)包みが描かれている。



たかみくらのす
高座之図 今村甫紹 天明4年(1784)写 1枚

高座は、即位式など朝廷の重要な儀式の際の天皇の御座。本図は尾張藩御用絵師今村が水戸家所蔵の図から写した。

王朝の儀式

平安時代以来の朝廷の儀式・年中行事は、変容をとめないながらも、江戸時代まで受継がれており、武家や民間の儀礼にも大きな影響を与えました。

江戸幕府のもとで、朝廷儀式の復興が進められると、尾張藩でも即位礼をはじめとした朝廷の儀式に多くの関心を寄せました。尾張徳川家に伝わった、朝廷の儀式・年中行事に関する書物・絵図などを紹介しますので、王朝文化の伝統に親しんでいただきたいと思います。

会期・平成十七年二月十五日(火)から

四月三日(日)

平成17年 展示案内 ※展示会名は変更がある場合があります。

- 1/4(火)～2/13(日)
 - 〈展示室1〉和歌への誘い
 - 〈展示室2〉大名家のお正月
- 2/15(火)～4/3(日)
 - 〈展示室1〉さまざまに愛好され続けた源氏物語
 - 〈展示室2〉王朝の儀式
- 4/5(火)～5/22(日)
 - 〈展示室1・2〉特別展 蓬左文庫の歴史と蔵書 ―新装開館・文庫公開70周年―
- 5/24(火)～7/24(日)
 - 〈展示室1〉名古屋のまつり
 - 〈展示室2〉東照宮祭



表紙:蓬左文庫新館
 平成14年着工 平成16年竣工
 ■建築面積 2,346.64m²
 ■延べ面積 3,002.67m²
 ■構造 本館 2階建鉄筋コンクリート造一部鉄骨造
 旧書庫 2階建木造(曳き屋・改修)

蓬左文庫

名古屋市蓬左文庫 〒461-0023 名古屋市東区徳川町1001番地 TEL(052)935-2173 FAX(052)937-0350

交通案内

■公共交通機関をご利用の場合

●名古屋駅より

【市バス】名古屋駅バスターミナル(テルミナ2F)グリーンホーム7番のりば基幹2号系統、「徳川園新出来」停下車徒歩3分

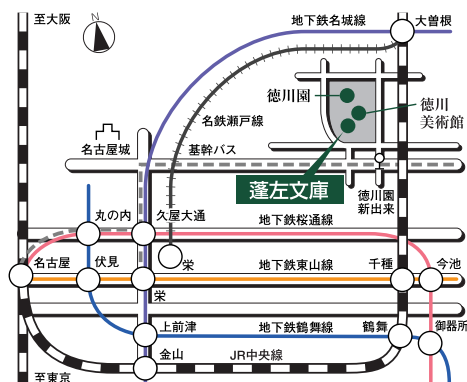
【名鉄バス】名鉄バスセンター(メルサ3F)4番のりば基幹バス「引山」方面行「徳川園新出来」停下車徒歩3分

【J R】JR中央本線、「大曾根」駅下車南出口より徒歩10分

【地下鉄】東山線「藤が丘」方面行、「栄」で名城線「右回り」に乗り換え「大曾根」駅下車3番出口より徒歩15分 桜通線「野並」方面行、「車道」駅下車2番出口より徒歩15分

●栄より

【市バス】栄バスターミナル(オアシス21)3番のりば基幹2号系統、「徳川園新出来」停下車徒歩3分



■お車をご利用の場合

蓬左文庫専用駐車場はありません。徳川園駐車場(有料 30分 120円)をご利用下さい。

ご利用案内

■休館日/月曜日(祝日のときは直後の平日) 12月中旬～1月3日 ※催事により変更することがあります。

■展示室/有料

一般:1200円 高校生:700円 小中生:500円(蓬左文庫・徳川美術館 共通観覧)

【開室時間】午前10時～午後5時(入室は午後4時30分まで)

■閲覧室/無料・館外貸し出しはいたしません。

【閉架図書】午前9時30分～午前12時 午後1時～午後5時

【開架図書】午前9時30分～午後5時

【複写サービス】保存など支障のない範囲で、CD-Rからのプリントアウトまたはマイクロフィルム複写などの方法により行います。電話・郵便による申込みも可。

「蓬左」第66号 ☆平成17年1月4日発行 ☆編集・発行:名古屋市蓬左文庫 ☆無料 ☆不定期刊行 ☆印刷:菱源印刷工業(株)
 ※この冊子は再生紙(古紙配合率100%、白色度80%)を使用しています。